

学芸員補助スタッフ紹介

皆さんはじめまして！昨年8月から学芸員補助スタッフとしてプラネタリウムの投影をしています、小田純之介(おだじゅんのすけ)と申します。私は生まれも育ちも大阪なので、小さい頃からよく訪れていた大阪市立科学館で投影ができるのは嬉しいとともに、とても身の引き締まる思いです。

専攻は惑星気象学で、特に木星の大気について研究をしています。サイズ、質量ともに太陽系最大の惑星である「木星」は、その大気も桁違いです！木星の表面では秒速100m/sの風が吹き、地球が丸ごと入ってしまう大きさの嵐が300年以上も続いています。内部では、強い重力により水素が金属の状態で存在していると考えられています！私たちには想像もつかない世界ですね。

木星はまだまだ分かっていないことが多い天体です。そんな木星の不思議についても、プラネタリウムでお話していきたいと思っていますので楽しみに！

私は、木星の大気を「分光」という手法を用いて観測しています。分光とは、文字通り「光を分ける」ことです。皆さんは、雨上がりの空に虹を見つけたことはありますか？実はあれも分光の例の1つです。太陽から来た光が地球上にある水滴の中を通ると曲がります(屈折といいます)。光の色によって曲がり方が微妙に違うので、水滴を通った光は色ごとに分けられ虹色に見えるのです。言い換えれば、太陽の光は様々な色の光が集まることであのような色で見えている、ということになります。

さて、夜空の星の光を分光すると一体何が分かるのでしょうか。星を構成する様々な物質は、それぞれ光の特定の色の部分を吸収することが知られています。それは、星の光を分光して虹色に分けた時に黒い線として表れます。これを「吸収線」といいます。物質によって光のどの色の部分に吸収線が表れるかは全く違うので、分光することで見える吸収線を調べれば、どんな物質がその星を構成しているかが分かるのです。そこから、星の温度や密度までも推定することができます。実際にその星まで行かなくても、分光して観測をすることで、その星の情報が手に取るように分かるのです！

とまあ難しい話をしてしまいましたが、趣味は歌とギターです！バンドや弾き語りで、たまに人前で演奏もしています。緊張しますが、その分達成感も大きいです。大勢の前に立つという意味では、プラネタリウム投影にも共通している部分があります。また、歌を歌うための「声を出す」スキルは、投影にもそのまま活かせるものだと考えています。自分の持てる力を駆使して、皆さんの心に残る投影ができるよう努力していきます。よろしく願っています！



小田 純之介(プラネタリウム担当)